

《株式会社エフエム東京 第402回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 25 年 10 月 1 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 6 名(社外 6 名 社内 0 名)

◇出席委員(3 名)

横 森 美 奈 子 委員長            香 山   リ カ 委員  
西 田 善 太 委員

◇欠席委員(3 名)

内 館 牧 子 委員            渡 辺 貞 夫 委員  
秋 元   康 委員

◇社側出席者(11 名)

富木田 代表取締役会長  
千 代 代表取締役社長  
唐 島 専務取締役  
石 井 常務取締役  
平       常務取締役 営業局長  
藤       取締役 マルチメディア放送事業本部長  
山 科 常勤監査役  
村 上 執行役員 編成制作局長  
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー  
宮 野 編成制作局 編成制作部長  
松任谷 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0 名)

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 25 分)

FM 三重×TOKYO FM 共同制作 伊勢神宮式年遷宮記念特別番組  
「未来へと、続く森～伊勢神宮が見つめてきた日本」  
9 月 28 日(土) 22:00～22:55 放送

＜議事内容＞

議題1:最近の活動について

◎2013 年8月度 聴取率調査結果について

2013 年8月度の聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。(調査対象期間:8月26日～9月1日)

全日週平均(6:00-24:00)の【15-24 才男女】【15-34 才男女】【20 代男女】で聴取率トップを獲得しました。

特に【20 代女性】が上昇し 2008 年以来の好スコアとなり、それに伴い、【20 代男女】のデイトタイム(9:00-18:00)において平日・土曜日・日曜日ともに単独 No.1 となりました。また、全日(6:00-24:00)12-59 才のリーチ(到達率)は首位を継続しており、1日を通じて幅広い世代から支持を得ていることがわかりました。

10 月以降も優しさと思いやりのある、リスナー心理に寄り添った番組作りを心がけ、未だ課題である継続聴取分数のアップに取り組めます。

◎日本郵便株式会社との「災害時における地域情報ネットワーク構築に関する協定」締結

2013 年 9 月 1 日 防災の日、当社をはじめとする JFN38 局は、日本郵便株式会社と「災害時における地域情報ネットワーク構築に関する協定」を締結しました。

本協定は、災害時に、全国約 2 万 4,000 を超える拠点を持つ郵便局から集まる、被災地の被害状況や周辺情報、窓口・ATM の営業状況などを、JFN38 局のネットワークを活用し、地域、県域、全国に発信し、安全確保と復旧支援に役立てようというものです。郵便局はきめ細かい地域の住民と恒常的なコミュニケーションを持ち、災害時も業務を続ける中で、周辺の被災状況も把握しており、生きた情報が期待できるものです。

東日本大震災時、JFN では、1 週間にわたり CM も公共広告も一切休止して、ヒューマンコンシャスの理念に徹した災害報道を続けました。中でも、FM 岩手からの要請による釜石支局でのサテライトスタジオ開設と、釜石市からの要請による臨時災害 FM 局の開設においては、被災地域のリアルな被害状況や避難所生活の実態が FM 岩手、更には全国ネット放送を通じて発信され、被災地から最も遠く離れた沖縄県のリスナーから最初に義援金が寄せられるなど、新しい情報の循環流通の動きを実現しました。

このような経験を活かし、当社をはじめとする JFN では、日本郵便株式会社との協定を第一弾とし、他の防災意識の高い一般企業との連携を今後更に拡大し、日本最大の総合防災ネットワークを構築することにより、今以上に公共的役割を果たすと共に、メディアとしての存在感を高めて参ります。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○聴取率好調の要因は何か？

■実態としてはあくまでコアターゲットの若年層において好調だったということで、最大のテーマである継続聴取分数の拡大に、試行錯誤している。8月においては、サザンオールスターズのヒット曲をオンエアする際に、リスナーが参加できるビンゴゲームを組み合わせるなどして、長く聞いてもらえる仕掛けを施したことなどに、若干の効果が出たのではないかと見ている。

○今の若者がレトロなものやアナログなものに逆に興味を示すという流れで、ラジオの復調はあるのか？

■当社はスマートフォンでラジオを聴けるように、他局に先駆けて iPhone アプリを開発した。その後、radiko や LISMO WAVE といったサービスを通じて全国各局のラジオをスマホで聴取する環境が整ってきた。そこに先鞭をつけて取り組んできたので、若い人からのシンパシーがあるのではないかと推察している。スマホでラジオを聴くことを、むしろニューメディア的にとらえてもらっているのではないかと。

10代をターゲットにした SCHOOL OF LOCK!は、9年目を迎え、以前から10代リスナーと接点をもってきたので、その世代が今、20代として聴いてくれているという実感がある。

○10月の改編は行わなかったのか？

■今回はそれほど大きな番組変更はしていない。今まで継続してきたことをさらに強化していく方向にある。まだまだハードルは高いが、少しずつ兆しが出ているという感じだ。

○radiko で聴いているのはどのくらいの割合か？

■前回の調査結果によれば、全世代の接触の中で、だいたい7人に1人はラジオではなく、radiko で聴いているという数字だ。傾向としては、PC で一人の時間に深夜聞いている人が多いようだ。

**議題2：番組試聴（約25分）**

【番組名】 FM 三重×TOKYO FM 共同制作  
伊勢神宮式年遷宮記念特別番組  
「未来へと、続く森～伊勢神宮が見つめてきた日本」

【放送日時】 9月28日(土) 22:00～22:55 放送

**【番組概要】**

本日お聴きいただくのは、9月28日(土)に、全国38局フルネットで放送した特別番組です。

TOKYO FM では、「伊勢神宮」を通じて、日本人の精神と文化のルーツを若い世代に伝える特別番組を平成23年より毎年放送してまいりましたが、20年に一度の式年遷宮を迎える今年はその集大成として、FM 三重との共同制作により、本番組を企画・放送いたしました。

脚本家・倉本聰と女優・中嶋朋子が“旅人”となって、「伊勢神宮」を訪れ、明治天皇の玄孫にあたる気鋭の法学者、竹田恒泰とともに、伊勢神宮の神秘をひもときます。

また9月14日に行われた「第62回伊勢神宮式年遷宮奉祝 TOKYO FM 倉木麻衣歌謡奉納」の様もオンエア。復興への思いを込めた Tsunami ヴァイオリンとの共演をお届けします。



**【TOKYO FM の伊勢神宮特別番組について】**

TOKYO FM では、平成23年「かつて来た、森へ。松任谷由実が巡る伊勢神宮と日本」、平成24年「永遠の記憶装置～伊勢神宮がつなぐ、和のころ～」を特別番組として放送してきました。そして第3回目となる平成25年は「未来へと、続く森～伊勢神宮が見つめてきた日本」と題して、3年にわたり追いかけてきた集大成となる番組を、FM三重との共同制作でお届けします。

**【委員の意見および社側説明】**

（「○」委員意見／「■」社側説明）

○伊勢神宮には行ったことがなく、断片的にしか知らなかったが、映像じゃないからこ

そ、玉砂利を踏む音などイメージが広がり、知らなかったことを知ることができた。保守主義者を公言する竹田恒泰さんのキャスティングははまりすぎて、偏狭なナショナルリズムの話にならないか懸念したが、最後は復興の話に落とし込まれていた。全体的には格調が高すぎる。TOKYO FM で、カジュアルに 20 代や若い人たちがリラックスして聴く放送局だということを考えると、若い人にとってはやや距離を感じたのではないか。

○「乾飯(かれいい)」、「鼎談(ていだん)」、「浄闇(じょうあん)」、「玄孫(やしやご)」など、難しい言葉が多すぎる。ゆったりとしたナレーションなのであれば、それだけ深い内容であってほしいが、それが感じられなかった。

○せっかく若い人たちの聴取率が好調だと伺ったばかりだが、果たして若い人たちがどのようにこの番組を聴いたのか疑問だ。もっと内容を知りたいのに、用語を説明してくれないと分からないところがある。倉本さん、中島さん、竹田さんの取り合わせは、それぞれのキャラクターが違う分だけ面白くなるものだと思うが、話の流れが、オリンピックや復興まで結びついてしまっていたのは、唐突な印象があった。

■テレビ等の取材は、おかげ横丁前で終わるのが通例で、中での取材は許されないのが通常だが、過去2年にわたり神宮サイドと調整を行って特番を組んできたことで、中での取材が実現したことを補足したい。東日本大震災で神社も相当な被害を受けているので、伊勢がその支援をしており、倉木麻衣さんの歌謡奉納は、伊勢神宮からの提案を受けて、ガレキの中で作成したバイオリンを使って実現したものだ。

言葉については、わかりやすさも大切だが、この番組に関してはレベルを重視し、あえて辞書が必要になるぐらい、少し難しくやろうという意図があった。

○たとえ格調高くやるとしても、言葉の説明は端折ることはない。漢字の説明がないと調べることさえできないため、わからせようとする歩み寄りが必要だろう。

## 5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

## 6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「SPO☆LOVE」  
11月2日(土)5:00～7:00放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き

<第 402 回放送番組審議会 議事録>

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、11月 12日(火)に開催することを決めた。

以上